



平成 18 年 3 月 31 日

各 位

会 社 名 T O W A 株 式 会 社
コ ー ド 番 号 6315 (東 証 ・ 大 証 1 部)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 経 営 企 画 室 長
河 原 洋 逸
TEL (075) 692 - 0251

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 11 月 9 日中間決算発表時に公表した平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 平成 18 年 3 月期 連結業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	18,900	1,100	4,300
今 回 修 正 予 想 (B)	19,000	2,700	5,900
増 減 額 (B - A)	100	1,600	1,600
増 減 率 (%)	0.5%		
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 17 年 3 月 期)	24,111	326	146

2 . 平成 18 年 3 月期 個別業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	16,000	700	4,050
今 回 修 正 予 想 (B)	16,100	1,600	5,500
増 減 額 (B - A)	100	900	1,450
増 減 率 (%)	0.6%		
(ご参考) 前 期 実 績 (平 成 17 年 3 月 期)	17,237	29	89

3. 修正の理由

携帯電話やデジタル家電・パソコン等の需要回復を背景とした半導体メーカーの設備投資意欲の高まりを受け、受注状況は前期第4四半期を底に回復基調に転じ、当第3四半期(平成17年10月~12月)には受注高が72億37百万円(前年同期比25億40百万円、54.1%増)となり、当第4四半期についても同水準程度を見込んでおります。

しかし、売上高については計画を達成できる見通しであるものの、収益面についてはシンギュレーション装置の生産・販売をしている米国子会社のTOWA-Intercon Technology, Inc.において昨年発売開始した新製品INJ2000およびSBS9100にトラブルが続発し、想定以上のコストが掛かったとともに、設計の大幅な見直しが必要となり、手配済みの仕掛品等にロスが生じ損失が拡大しました。

当社においても、利益率の高い金型の売上高比率が計画よりも下回ったことにより粗利が低下したことに加え、資産の健全化を図るため、原材料および仕掛品等の評価損約5.8億円および特別損失に子会社(TOWA-Intercon Technology, Inc.)の株式評価損約9.8億円を計上することといたしました。さらに、事業の選択と集中による事業改革を推進するため、ウエハ洗浄装置およびボンダー関連装置事業からの撤退を決定し、これらに関する固定資産および製品在庫等の処分損として約2.5億円を特別損失として計上します。

また、来期以降の収益性の回復を図るため、海外生産子会社の整理縮小、日本国内においては40歳以上の社員を対象にした早期退職優遇制度を導入することを決定し、これらに関する引当金等として約3.2億円を特別損失として計上いたします。

当社は、これら損失の拡大を経営責任として重く受け止め、本日発表します中期経営計画にて今後の方針・施策を提示するとともに、役員報酬のカットを実施し、役員退職慰労引当金についても全額取り崩し、特別利益に6.3億円を計上することとしました。

上記理由により、昨年11月9日に発表しました業績予想を修正いたします。

なお、前記の予想は現時点において入手可能な情報、および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としています。従いまして実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性がありますのでご承知おき頂きますようお願いいたします。

以 上